江戸東京研究センター・シンポジウム

# 江戸東京の妖怪アート

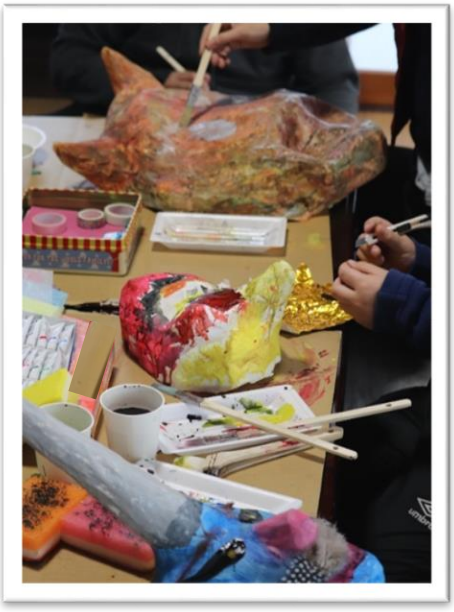
## ―文化遺産としての位置づけと活用のあり方―

江戸後期において娯楽の対象となった妖怪は、様々な絵画や文学に描かれました。当時作られた妖怪イメージは近現代にも継承され、現代のマンガやアニメに影響を与えるだけでなく、妖怪をテーマとした地域のまちづくりにも利用されています。本シンポジウムでは、妖怪関連の資料の歴史的・芸術的価値について考察することからスタートし、現代の妖怪マンガの解釈を試みるとともに、妖怪アートをまちづくり・まちおこしに活用した事例研究をとりあげます。

〈発表1〉
**湯本豪一**（妖怪研究者）
「江戸・東京の妖怪情報―作品と記録の混在と融合」
コメント　横山泰子（法政大学理工学部教授）

〈発表2〉
**岡村民夫**（法政大学国際文化学部教授）
「杉浦日向子　江戸／東京の怪」
コメント　神谷博（法政大学江戸東京研究センター客員研究員）

〈発表3〉
**市川寛也**（群馬大学共同教育学部准教授）
「まちを楽しむ方法としての妖怪アート」
コメント　山道拓人（法政大学デザイン工学部専任講師/ツバメアーキテクツ代表）



**2022年11月12日（土）14時~18時**

**法政大学市ヶ谷キャンパス・外濠校舎4階S405教室**

参加無料・対面開催のみ
・事前申込が必要です
・オンライン配信は行いません

事前申込:https://forms.gle/YiP1sWcA3CKYE54M7

ETOS 江戸東京研究センター
Hosei University Research Center for Edo-Tokyo Studies

法政大学 HOSEI University

法政大学江戸東京研究センター
102-8160　東京都千代田区富士見2-17-1
Email：edotokyo-jimu@ml.hosei.ac.jp